

安全

便利

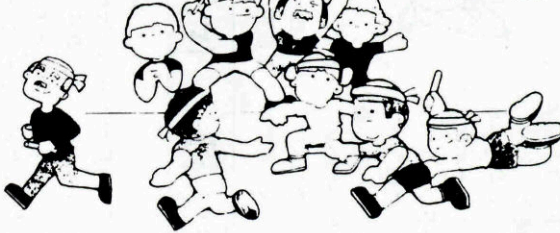
あたたかいふるさとづくり

健康

快適

No.1

町内運動会



ちづづくりとなつて実を結ぶこと
でしょう。

油谷町も合併して三〇周年を迎え、いわば壮年期に達したわけですね。この期に町民が大団結してお互いが心の通う町づくりをめざして、あたたかいふるさとづくり運動を盛りあげたいものです。その基礎はコミュニティづくりにあります。

ふれあい、お隣りから、真心のつきあいをすることから始まります。あなたのその真心は、やがて大きな輪となつて、ほほえみと語らいのま

今住んでいるところに
「このままずっと住みたい」と思い、そこに「ふるさと」を感じようような「まち」や「むら」が「あたたかいふるさと」と、言えるのではないでしようか。

今そこに住んでいる人たちが、隣近所との「心のふれあい」を大切にし、お互いの心の交流をとおし話し合い、知恵を出し合い、助け合つて、快適で住みよい人間尊重の地域社会をつくることです。

町制施行 三〇周年を期して

このような出来事は、平素からお互いの心のふれあいがあれば、防げたのではないでしようか。このためみんなで話し合い助け合つて、地域のひとひとの結びつきをとりもどし、誰もが生き生きとした人間らしい暮しができる「まちやむら」をつくる必要があります。とりわけ老人や子供などの弱い立場にある人達が、豊かで

先般の長崎水害の教訓の中に、同じ被災地区で、A部落は平素からコミュニティ活動が確立していたので、隣近所連絡をとり合い早く避難でき人災を免れたのに対し、B部落は隣近所のコミュニティシヨンがうまくいっていなかったため各戸が出動中の家族との連絡に終始し、部落内の対応がおくれ、死傷者を出した事例が、報告されて

コミュニティとは
清掃活動



花いっぱい運動

ふれあい、話し合いが進めば行事や地域課題に対する共通意識が生れてきます。そこになかま意識が育くまれ、ふるさと意識がめばえてくるでしよう。

住みよいと感じることのできる、新しい町を、つくっていかなければなりません。

コミュニティとは、一言で言うことはなかなかむつかしいのですが、それは「快適な生活環境があつて、そこで生活する人々の間のふれあいと心の結びつきがあり、豊かで住みよいと人々が感じるこことができるまちやむらのことである」と言えますし、それとともに「わたしたちが、その地域に誇りと住みたいと思ひ、その地域に誇りを持ち、そこにふるさとを感じるこことのできる、むらやまちのことである」といえるでしよう。

コミュニティづくりは、そこに住む住民が主役です。自ら考え、行動して、我々の住む地域社会を明るく住みよいものにするこことであると思ひます。

ボランティア活動

近隣の心の通う付き合いや、心の安らぎが、生き生きとした生活につながるのではないでしようか、朝夕のあいさつ愛の一声運動など、実践を通してふれあいを深めましよう。



助け合い

住民の心の結びつきが深まれば、その地区をもつと住みよくなり、力を合わせて課題を解決していく意欲が生れ、みんなで行つていくか、具体的な組織・計画・実践が進められ、コミュニティ活動がもり上つてゆくでしよう。

ふれあい、話し合いが進めば行事や地域課題に対する共通意識が生れてきます。そこになかま意識が育くまれ、ふるさと意識がめばえてくるでしよう。

ふれあい、話し合いが進めば行事や地域課題に対する共通意識が生れてきます。そこになかま意識が育くまれ、ふるさと意識がめばえてくるでしよう。